

6 関節リウマチと歯周炎の感受性に関連する遺伝子多型

小林 哲夫*、**・伊藤 聡***
 黒田 毅****・山本 幸司**
 杉田 典子**・成田 一衛****
 住田 孝之***・下条 文武****
 吉江 弘正**

新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部*

新潟大学大学院医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野**

筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学臨床免疫学分野***

新潟大学大学院医歯学総合研究科腎・膠原病内科学分野****

【目的】関節リウマチ(RA)と歯周炎は病態や遺伝的背景が類似していることが知られている。そこで本研究では、免疫グロブリンG Fc受容体(Fc γ R)とインターロイキン1(IL-1)の遺伝子多型解析を行った。

【方法】RA患者、歯周炎患者、ならびに健常者各100名を対象に、末梢血からゲノムDNA抽出後にアレル特異的PCR法にて遺伝子型を決定した。

【結果】RA患者群の歯周炎罹患率は同年代の集団と比べて高い傾向にあり、同患者群の歯周組織は歯周炎群と比べて炎症や破壊の程度が軽度であった。歯周炎に罹患したRA患者では、IL-1B+3954Tアレル頻度が高かった。

【考察および結論】今回の結果から、Fc γ RとIL-1遺伝子多型がRAと歯周炎の共通リスク因子にはなり得なかったがIL-1B+3954遺伝子型が、RAと歯周炎に双方罹患した患者に特異的であることが示唆された。今後も多型パネルを追加して両疾患の遺伝子学的関連性を検討していく予定である。

7 家族性IgA腎症の遺伝子解析

和田 真一・後藤 眞・成田 一衛
 下条 文武

新潟大学大学院医歯学総合研究科腎・膠原病内科学

IgA腎症は最も頻度が高い原発性糸球体腎炎であり、糖尿病性腎症と並んで、末期腎不全の主要な原疾患でもある。IgA腎症の発症機序は現在のところ不明であるが、家族性IgA腎症の報告、発症の人種差などから、疾患感受性遺伝子の存在が想定されている。これまでのところ家族性IgA腎症症例の遺伝子連鎖解析では6q22-23を始めとするいくつかの疾患感受性領域が報告されているが、これらの領域のどの遺伝子が責任遺伝子であるかはいまだ不明である。我々は、腎生検でIgA腎症と診断された患者が複数例存在する家系、あるいは腎生検でIgA腎症と診断された患者の家族歴に血尿などの尿異常や腎不全症例の集積している家系といった、家族性IgA腎症が疑われる家系から臨床試料収集を行い、この一年で新潟県内24家系88名のゲノムDNAを収集した。今後、Affymetrix Genome-Wide Human SNP Array 6.0を用いこれらの検体のゲノムワイドな連鎖解析を行う予定である。

8 先天性アンチトロンビン欠乏症の臨床像と分子病態

小澤 哲夫

国立病院機構新潟病院内科

アンチトロンビン(AT)は分子量約59,000の一本鎖糖タンパクで、serine protease inhibitorの1種である。ATは重要な血液凝固制御因子であり、その先天性機能異常症(分子異常症)や欠乏症では静脈血栓症の発症リスクが5倍程度増加する。ATの凝固阻害作用はトロンビンや活性化X因子(Xa)などの凝固因子と1分子対1分子の不可逆的結合をすることにより発現されるが、ヘパリン存在下では、その阻害反応速度は数百倍に加速される。このような作用機序の多くは、新潟大学にゆかりの深いAT Toyama(ヘパリン結